

# あーばんとーく

平成 12 年 1 月号 (通巻 第 29 号)  
 発行：財団法人 神戸市都市整備公社  
 こうべまちづくりセンター  
 〒650-0022  
 神戸市中央区元町通4丁目2番14号  
 電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546  
 URL: <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>



## 「誰もが安心して住み続け、訪れ、働き続けたいくなるまち」をめざして

皆様 新年あけましておめでとうございます。

西暦 2000 年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

阪神・淡路大震災から 5 年が経過しようとしておりますが、あの時、大きな被害に遭われた住民の方々や関係者の皆様の大変なご努力、ご尽力により市内の仮設住宅も解消し、多くの災害復興住宅が供給される等まちの復興は着実に進んでおり、改めてお礼申し上げる次第でございます。

さて、こうべまちづくりセンターは、平成 5 年にオープンして以来、まちづくり大学の実施、関連資料の収集等の業務に取り組んでまいりました。しかし、震災で住宅を失った多くの住民の方々から住まいやまちの復興に関する相談が増したことに対応すべく「こうべすまい・まちづくり人材センター」を設置し、従来、神戸市が実施していたコンサルタント等の専門家派遣制度をここに一元化いたしました。その結果、住民のニーズに機動的、効率的な対応ができ、今日まで 532 件（約 260 地区）の専門家派遣を行い、165 地区（約 65%）で事業化に着手、完成する等神戸の復興に大きな役割を果たしたと考えております。

最近では、震災復興の相談も落ち着きを取り戻しつつあり、これからのまちづくりセンターとしては、従来からの機能に加え、震災後の地域でのまちづくりの取り組みや専門家派遣の事例等の情報を整備し、来館者に閲覧していただいたり、インターネットで全国に発信する等して震災復興の貴重な体験を風化させることなく、これからのまちづくりに活かしていきたいと考えております。

21 世紀の神戸は「誰もが安心して住み続け、訪れ、働き続けたいくなるまち」にしなければなりません。そのためには、神戸の将来像を視野に入れた長期的な視点からのまちづくりがソフト、ハード両面から求められており、神戸アスリートタウン構想や神戸医療産業都市構想、神戸国際マルチメディア文化都市構想等の施策を推進することで、商業、文化、福祉等の都市機能を充実させ、生活者重視の観点から市民、事業者、行政の協働によるコンパクトシティの実現に努めていきたいと考えております。今後とも、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のますますのご発展、ご繁栄を祈念し、新年のお祝いの言葉とさせていただきます。

(財)神戸市都市整備公社理事長  
 神戸市長

星山幸俊

## 震災復興5年を振り返って

○「こうべすまい・まちづくり人材センター」震災復興5年の歩み（平成11年12月末現在）

1. 相談受付件数（平成7年度からの累計） 1,903件
2. 登録専門家数 313社（人）（コンサルタント 218、弁護士 16、司法書士 8、公認会計士・税理士 15、不動産鑑定士 8、大学教員 7、土地家屋調査士 41）
3. 専門家（アドバイザー・コンサルタント）派遣実績

	建築物 共同化	マンション建替	コーポラティブ 住宅	まちづくり	道路整備型 グループ再建	区画整理	住まい再建 相談等	合計
東灘区	37	27	3	23	3	11	7	111
灘区	27	4	0	24	8	10	3	76
中央区	26	7	0	35	1	0	5	74
兵庫区	40	5	0	13	4	5	1	68
北区	0	0	0	6	0	0	4	10
長田区	55	4	3	26	20	40	3	151
須磨区	6	4	0	6	2	0	1	19
垂水区	2	1	4	6	1	0	0	14
西区	0	0	0	2	0	0	2	4
その他	0	0	0	0	0	0	5	5
計	193	52	10	141	39	66	31	532

## まちづくり講座「安全マップをつくろう」

今年度のこうべ市民安全まちづくり大学も、前半の山場、『安全マップづくり』を越えたところです。今回は、板宿地区をモデルとして行われたまち歩きからマップができあがるまでをご紹介します。

### 10/31 (日) 板宿地区のまち歩き① (13:30~16:00)

この日の講師には、産業技術短期大学 助教授の児玉 善郎先生をお招きしました。先生は、都市計画、地域計画、住宅計画、福祉や住民参加のまちづくり等数々のプロジェクトに携ってこられました。

さらに、先生には、こうべ市民安全まちづくり大学の開校以来、常に適切な指導・助言をしていただいております。

板宿地区は地形的に傾斜地が多く、道は狭い上に違法駐輪・駐車が多いのでたくさんの課題が発見できました。



また、まち歩きには防災福祉コミュニティや自治会の方々約20名が参加され、いろいろとご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

板宿地区のみなさん、本当にありがとうございました。

### 11/11 (木) 板宿地区のまち歩き② (14:00~16:30)



この日は、前回のまち歩きに参加できなかった受講生を対象に2回目のまち歩きを実施しました。平日の昼間にもかかわらず、9名の方が参加され、自分たちの班が発見したまちの課題を熱心に点検しようとされていました。

### 11/18 (木) 安全マップの完成に向けて (18:30~20:45)

この日も、児玉 善郎先生に講師をお願いしました。

先生からは、<マップづくりのポイント>として、

- ① 地域の特徴を出してみる、② 色をうまく使い分けてみる、
- ③ 透明シートを活用してみる、④ 写真を効果的に使ってみる、
- ⑤ 凡例シートを活用してみることをアドバイスいただきました。

受講生は、まち歩きした場所を思い出しながら積極的に意見を出し合い、マップを仕上げ、「わが班の新発見」も各班で発表しました。



そして、いよいよ各班の発表です。1班2~3分の予定が、つい熱が入り、時間を過ぎてしまう班もあるほど盛り上がりました。

最後に、児玉先生の講評では各班の特徴をうまく引き出して、マップづくりの意味を分かりやすく説明していただきました。



<sup>いささ</sup>些か、まちづくりのきっかけづくりで足踏みをし過ぎたようだが、区役所でのわずか3年間の実例を基に筆を進めているので、どうしてもまちづくりの初期段階が中心になる。やむを得ないとお許し願いたい。

都市計画流でいくと「きっかけづくり」で、まちづくりの気運が盛り上がれば、早速、「住民組織づくり」を行い、まち全体の「整備計画の策定」「ルールづくり」をめざした会合を重ねて行くことになる。そして、整備計画やルールなどのソフトの準備が整えば、道路・広場の整備、建築物の建替などの「ものづくり」にとりかかることになる。これらの住民主体のまちづくりの手続については、神戸市では、昭和56年の「まちづくり条例」の制定によって、いち早く整備された。また、それを保障する制度として、コンサルタント派遣、アドバイザー派遣やまちづくり助成などのしくみも充実してきた。これらのしくみについては、徐々に建設省の補助制度にも採用されて来たが、復興区画整理事業において一挙に制度として充実され、円滑な事業推進に大きな成果を発揮したと考えられる。

しかし、これらの手続きどおりに進めていくには、一般的には相当な時間とエネルギーが必要なことから、行政の組織立ったリーダーシップや強力な住民リーダーの存在が不可欠である。従って、区役所レベルの事業やこれからまちづくりについて学習しながら進めて行こうとする地域では負担が大き過ぎる。長時間をかけて、立派なまちづくりの整備計画をつくっても、それが少しずつでも実現しなければ、かえってその後のまちづくりが止まってしまう。そういう意味で、「組織化」→「会合」→「計画・ルールづくり」→「具体的整備」というように段階的により高次の活動へと移行していくより、住民にとってより身近なところで、「実践活動」→「ビジョンづくり」→「ルールづくり」を繰り返していく方が、現実的であり継続的なまちづくりにつながり易い。今はやりの言葉で言えば、「持続可能なまちづくり」「サステナブルコミュニティ」の実現ということになるだろうか。例えば「旧西国街道まちづくり」においては、常にその点を意識して、より身近なところから、より共感が得られることから、実践活動を中心に活動を進めていった。というのは、この地域ではかつて計画的な都市計画事業が頓挫した経験が少なからずあったからである。従って、組織づくりにあたっては、各地域のニーズに即した活動内容に絞って、地域間で協力ができ、つながって行けるよ

うな実践活動を重視した。また、ハード整備についても、広場や石碑などの点的整備を徐々に線的につなげて行き、さらに面的に発展していくことを期待した。

旧吾妻小学校の生涯学習支援センターとしての改修整備にあたっては、旧西国街道沿の学校敷地の一部を広場として整備したいという地元要望があった。その際にも、まず西側角を住民のワークショップによる整備案・管理ルールづくりを経てとりあえず整備し、その利用状況を見て、東側や隣接する吾妻公園との一体整備に発展していくことをめざしていた。この広場は、大安亭市場の入口に位置することから、ポイ捨てや違法駐輪が絶えないが、住民の皆さんが根気よく維持管理を続けていくことにより、みんなの広場という意識が広まり、ルールやマナーが地域に浸透していくのが願いである。今後は、さらに沿道にある空地や公園を活用して小広場づくりが計画されており、遠い将来には、この旧西国街道自体がみんなの広場として、安心して楽しく歩け、集うことができればというのが夢である。その過程で、徐々に地域全体の将来ビジョンづくりも可能になっていくと思われる。



西国街道あづままちかど広場

このように、まちづくり活動の繰返しによって、各所でまちづくりの輪が広がり、徐々に個性的なまちが形成されていけば素晴らしいが、定着していくためには何が必要だろうか。そのための課題として行政のあり方も柔軟な対応と変化が求められる。第一に、公平性と住民負担の問題。客観的なデータに基づく課題解決型の都市計画事業と整合性をとれるのかということ。第二に、段階的整備や実験的整備は問題先送りにならないかということ。第三に、そのようなまちづくりを持続していくうえで住民に求められるもの、行政に求められるものは何かということである。今回はこの点について考察したい。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部体育保健課長 見 通 孝)

# まちセン イベント案内

## 阪神・淡路大震災 5周年特別企画

阪神・淡路大震災5周年に際し、市民の皆様へ震災記憶の継承と復興に向けての取り組みを総括・検証して頂けるようにと、復興状況写真、パネル、模型等の展示を行います。

### 展示内容

- ・ 航空写真で見るまちの移り変わり：復興状況写真展
- ・ 建築・まちづくり展：復興への取り組み

場所：地階ギャラリー 期間：1月13日(木)～25日(火)午前10時～午後6時(水曜日は休館)

- ・ 震災復興5年の歩み・神戸―試練を越えて―

場所：1階オープンギャラリー 期間：1月6日(木)～31日(月)午前10時～午後6時(水曜日は休館)

- ・ いきいき下町シンポジウム「阪神・淡路大震災の復興5年から見えるもの」

場所：2階ホール 期間：1月23日(日) 午後2時～5時 (開場：1時30分)

## まちづくり会館からのお知らせ

### こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
1月6日(木)～11日(火)	神戸大学写真部 部展	神戸大学写真部
1月13日(木)～25日(火)	航空写真で見るまちの移り変わり 建築・まちづくり展：復興への取り組み	神戸市都市計画局 いきいき下町シンポジウム 実行委員会
1月27日(木)～2月1日(火)	丹水会展	丹下 幸男
2月3日(木)～8日(火)	兵庫の美 第11回公募写真展	(財)兵庫労働者福祉基金協会

### こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

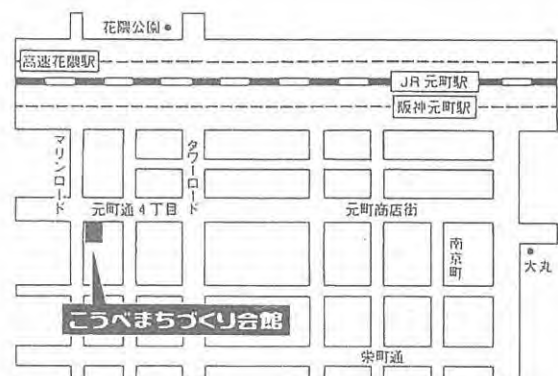
1月6日(木)～31日(月)	震災復興5年の歩み	こうべまちづくりセンター
----------------	-----------	--------------

### すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター  
(こうべまちづくり会館 3F)  
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584  
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は  
まちづくり相談コーナーで受け付けます  
(こうべまちづくり会館 4F)  
時間は、午前10時～午後5時

### 自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)  
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など  
受付：午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)  
電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546